

求めて已まぬ

理想の未来を掴みに行け！

松本蟻ヶ崎高校
2学年 学年・進路通信
第45号 2021.7.15

進路講演会、いかがでしたか？

先週開かれた山内太地先生の講演、いかがでしたか。「蟻ヶ崎の生徒ならもっともっとやれるはずだ」という応援の講演でもあったと思いますし、そのために何をすべきか、どう取り組んでいくかという方策を示してくださった講演でもあったと思います。どんな話か、覚えていますか？

1, 日本の現状

人口減少、年収減少、税金上昇、仕事はハードに
初任給……日本：約20万円、韓国：約30万円
日本は20年間ほぼ変わらず、中国は約
200倍に

年収 ……先進国で、この20年間下がり続けているのは日本だけ。

- 日本に、有能な人材は集まらない
- 人口減少、高齢化率の加速で日本は労働者不足に(それを補うためにAIの導入が進む)
- このままでは日本は世界に置いて行かれる
- 一人一人がいかに能力を発揮するかがキー
- 労働者感覚(誰かがなんとかしてくれる。言われたこと、任されたことをやっていけばよい=AIの得意分野)で働いていては、AIに職を奪われる。自分が店長、社長のつもりで働く意識が必要。

2, そのために、今、どうするか

「能動的な学習」をする。「やらされる勉強」ではなく「自分からやる勉強」をする。そのために、

- ① 計画を立てる
- ② 実行する
- ③ 結果を出す(ゴールの設定が大事！これは、AIにはできないこと)

そして、

「読む」「書く」力(受動的な勉強で身につけられる、偏差値で計れるスキル)ではなく、「聞く」「話す」力(自分で探究する、皆と話す、試行錯誤する、正解のない問題を協力して解く等、ペーパーテストでは計れない能力)を鍛える。この力が、推薦入試や総合選抜型入試(面接、志望理由書、小論文、書類選考等)で生きる。

「2030年問題」が、ここ数年クローズアップされていますが、これは、まさに皆さんが大学を卒業し、社会に出る時に直面する問題です。そのような社会ではどんなことが求められるか、どんな人材が望まれるか、そのために何が必要なのかということ

を話していただきました。そして、そういう時代だからこそ、進路選択が大事だということでした。

3, 「進路の選び方」

- ① 世の中に関心を持つ(問題の発見・解決)
- ② ベストな進学先を探す
- ③ 勝てる入試方法を探す

そのために、

- ・志望校の「3ポリ」(アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー)を調べる。
- ・夏休みの学校外のイベントに参加し、自分なりの経験を積む(自己アピールできるネタ探し)。

「勝てる入試方法」として、推薦や総合型選抜の利用を勧めていましたが、それにチャレンジするには、「一般入試でも受験できる力をつけること」が必須だと強調されていましたね。皆さんは、推薦入試や総合型選抜入試(以前は「AO入試」と呼ばれていました)に対して、どんなイメージを持っているでしょうか。「一般入試を受けるより楽」「一般入試より受かりやすい」と考えているなら、それは甘い考えです。志望理由書や面接の対策には、相当な時間がかかります。しかも、これらには不正解はあっても正解はありません。そして、より良いものを目指して追究すればきりがありません。また、推薦や総合型選抜を受験するという事は、本来なら一般入試の勉強に注げる時間を推薦等に割く(しかも、受験生にとって一番大事な追い込み期間の9月~11月のうちの約2ヶ月間を)ということになるので、一般入試一本で頑張っている人と、どうしても差が付きまします(もちろん、「推薦等の準備もしながら、一般入試に向けた勉強をやり続けていても」の話です)。そして、推薦や総合型選抜を受験したら、一般入試に向けてすぐに気持ちを切り替えて取り組むことが必要です。ところが、毎年、なぜか受験をすると合格したつもりになってしまう人が多く、不合格とわかってから慌ててやり始める人が目立ちます。しかし、推薦入試の場合は、その頃にはもう共通テスト1ヶ月前となっていて、今さら慌ててもすでに時間がありません。結局、「虻蜂取らず」で終わってしまい、浪人あるいは、当初考えてもいなかったところに入学ということになってしまう人も少なくないのです。そうならないように、これらの受験を考えている人は、十分に実力を身につけた上で、「石にかじりついてでも合格する」という意気込みでチャレンジしてください。そして、推薦・総合型選抜入試は、

☆この通信を含め、学校からの配布物は必ず保護者の方にも見せてください。

3年秋の時点で合格できそうな所を受験する入試ではなく、「自分の憧れの志望校」にチャレンジする入試だということをお忘れなく。

4、推薦・総合型選抜合格者の共通点

- ① 目的がある(誰のために、何のために学びたいかが明確)
- ② 自分だけの経験を持っている(自己アピールできる必殺技がある)
- ③ 入りたい大学を研究し尽くしている(3ポリを知り尽くし、やりたい研究・学問、師事したい先生が明確)

この3点について、今の皆さんに、人に「語れるもの」はありますか。昨年度の卒業生で、某国立大学の推薦入試に合格した人がいました。その人は、自分がその大学を志望校と決めた時から、「〇〇大ノート」(〇〇には大学名が入ります)というのを作り始めたそうです。そして、県外にもかかわらずオープンキャンパスに何回も足を運び、その大学のことを自分の志望学部以外についても徹底的に調べ上げ、オープンキャンパスや進学相談会に行った時の自分の質問事項やその回答、印象や感想、それに対する考察を詳細に書き留め、それらが積み積もって、とうとう分厚い大学ノート丸々1冊分にもなったのです。志望理由や入学後の目標、自分のアピールポイント、面接時の留意点なども、そのノートにすべてまとめ、そのノートは、その人にとって受験の最強の武器となりました。推薦入試の面接では、面接官に「君は、この大学について何でも知っているねえ。どうやって調べたの。すごいね。」とまで言わせました。面接や志望理由書では、あふれる「〇〇大学愛」を訴え、結果はもちろん「合格」。私たちから見ても、「こんなにやっているのだから、当然合格するでしょう」と思える受験でした。

5、では、どうすればよい?

- ・自分の限界を超えろ
- ・毎日コツコツ積み上げる
- ・家に帰ったら、まず15分勉強する習慣をつける(まずは、帰宅後すぐに勉強する習慣をつける。長時間やらなくてよい。15分勉強を何度も繰り返す)
- ・勉強が好きになるように工夫する

ここからは、皆さん次第ということ。その気になった人だけが実践できます。一気に全部やるのは難しそうですが、

15分勉強習慣をつける → 毎日それをコツコツ積み上げる → 積み上げていけばそれまでの自分の限界を超えることになる → 勉強が好きになっていく

ということなら、いけそうな気がしませんか。まずは、帰宅後に手洗い・うがいを済ませたら、テレビ

やスマホを見ずに、夕飯の前に15分間集中して勉強するという習慣をつけましょう。そうする目的は、帰宅後に勉強する習慣をつけ、勉強にとりかかることへの抵抗をなくし、勉強時間ゼロからの脱却を図ることにあります。「30分」は無理でも、「15分」なら、帰宅時に多少グッタリ感があっても、できそうではないですか?そして、この「15分」を繰り返すのです(もちろん、それが自然に30分、40分と長くなっていけば言うことありません)。夕飯食べて15分、お風呂に入って15分、スマホを見る前に15分、寝る前に15分……。どうでしょうか?できそうではないですか?勉強の習慣のない人は、試してみてください。もうすでに実践しているそのあなた!「さすが!!」です。

☆今後の予定(急な変更があるかもしれません)

- ・7月15日(木) 「オープンキャンパス学校研究ワークシート」提出締め切り日
- ・7月16日(金) ワックス掛け(清掃終了後)
 - ※ ワックス掛けの前に、床を入念に清掃する。
 - ※ 机の中を空にする。私物はすべてロッカーの中に入れるか、持ち帰る。
 - ※ 床に触れているものはすべて、ロッカーの上に乗せるか、廊下へ出す。
 - ※ ワックスが乾くまで、教室内は立入禁止。
- ・7月19日(月) 月①②③+特①②③
- ・7月21日(水) SHRなし
 - 1時間目 8:35~9:30
 - 2時間目 9:40~10:35
 - 3時間目 10:45~11:40
 - 清掃 11:40~12:10
 - LHR 12:10~12:40
 - 昼休み 12:40~13:25
 - 部室移動 13:30~
 - ※ 生徒会選挙告示
- ・7月22日(木)~8月24日(火) 夏季休業
- ・7月26日(月)~30日(金) 午後:保護者懇談会
 - ※ 夏季補習第1期(3年生のみ2期・3期あり)

保護者の皆様へ

4月のPTA資料で、研修旅行の保護者説明会を、10月1日(金)の19:00~本校の小体育館で行うとご連絡いたしました。夜間でお疲れの時間帯でもあり、また、帰宅時で本校周辺の通行量が多くなる時間帯ともなりますので、日時を変更し、9月23日(木)または25日(土)の午後に行いたいと存じます。場所に変更はございません。日程については後日ご連絡申し上げます。当初の日程よりの変更となり申し訳ございませんが、ご理解いただきたく、よろしくお願い申し上げます。



☆この通信を含め、学校からの配布物は必ず保護者の方にも見せてください。